

 映画美学校

言語表現コース

ことばの学校

第5期 基礎科

募集要綱

2025

ことばの学校 第5期の秋

おかげさまで映画美学校言語表現コース「ことばの学校」は、なんと第5期を迎えることになりました。世に数多ある「ライタースクール」や「作家養成講座」などとは根本的に異なった、ジャンルやスタイルの壁を超えた「ことば」の学び舎、それが「ことばの学校」です。

この世界がそうであるように、この社会がそうあるべきであるように、ことばも多種多様です。完全オンラインの基礎科では、今もっとも話を聞いてみたい「言語表現のプロフェッショナル」の方たちを毎週入れ替わり立ち替わりゲストにお迎えして、カジュアルでありつつもディープな講義を次々と繰り広げます。ことによるとゲストによって考えや主張が大きく異なることもあるかもしれない。でも、それこそが「ことばの多様性」なのです。

さまざまな「ことば」観、それぞれの「ことば」論を浴びるように摂取していくうちに、自然とあなたの「ことば」も変わってゆく。それはあなたがあなた自身の「ことば」を「書くこと」に決定的な影響を及ぼすはずです。基礎科の後には、より実践的な演習科も用意されています。

今回も圧倒的に素晴らしい講師ラインナップでお届けします。多くの方のご参加をお待ちしております。

映画美学校言語表現コース ことばの学校 主任講師 佐々木敦



佐々木敦(批評家)

批評家。音楽レーベルHEADZ主宰。多目的スペース SCOOOL 共同オーナー。映画美学校言語表現コース「ことばの学校」主任講師。批評家養成ギブス塾長。早稲田大学、立教大学などで教鞭もとる。文学、映画、音楽、演劇など、幅広いジャンルで批評活動を行っている。『「書くこと」の哲学 ことばの再履修』(講談社現代新書)、『成熟の喪失 庵野秀明と父の崩壊』(朝日新書)、「教授」と呼ばれた男 坂本龍一とその時代』(筑摩書房)、『ニッポンの思想 増補新版』(ちくま文庫)、『増補・決定版 ニッポンの音楽』(扶桑社文庫)など著書多数。

言語表現コース ことばの学校 とは

- 言語表現のさまざまなジャンルや形式に触れ、「自分が自分だからこそ書ける言葉」を発見し、獲得することを目指します。
- 基礎科と演習科（各半年間）に分けて募集。基礎科は全 16 名の講師による講義（16 回）と主任講師の佐々木敦による講義（4 回）の全 20 回の講義となります。各講師の「ことば」の考えを聞き、さまざまな「ことば」を習得します。
- 演習科は、課題の提出と指導、講評が中心となった、より実践的な講義となります。またスペシャルゲストによる特別講義も予定しております（詳細は基礎科開講後に発表の予定）。
- 基礎科はオンラインで実施、演習科は対面とオンラインの併用で実施。遠方でも受講が可能です。
- 座学のほか、基礎科は主任講師、演習科は主任講師・講師による課題講評を受けることができます（正規生のみ）。
- より気軽に参加ができる聴講制度を導入。自分の好きなタイミングで講義を閲覧することが可能です（基礎科のみ）

正規受講生：講義をリアルタイムで参加・講師陣への質疑応答・主任講師による課題講評・講義アーカイブの視聴可能・定員あり
聴 講 生：安価で講義のアーカイブを閲覧・開講後でも申し込みが可能・定員なし

言語表現コース ことばの学校 基礎科 講義スケジュール

年月日	曜日	時間	講師
2025 年 10 月 9 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 16 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 23 日	木	19:30-	北野勇作＋佐々木敦
10 月 29 日	水	19:30-	小川公代＋佐々木敦
11 月 6 日	木	19:30-	朝比奈秋＋佐々木敦
11 月 13 日	木	19:30-	古賀及子＋佐々木敦
11 月 20 日	木	19:30-	小笠原鳥類＋佐々木敦
11 月 27 日	木	19:30-	伊藤亜紗＋佐々木敦
12 月 4 日	木	19:30-	青木淳悟＋佐々木敦
12 月 11 日	木	19:30-	絲山秋子＋佐々木敦
12 月 18 日	木	19:30-	佐々木敦
12 月 25 日	木	19:30-	スズキナオ＋佐々木敦
2026 年 1 月 8 日	木	19:30-	向坂くじら＋佐々木敦
1 月 15 日	木	19:30-	小川哲＋佐々木敦
1 月 22 日	木	19:30-	イリナ・グリゴレ＋佐々木敦
1 月 29 日	木	19:30-	仲俣暁生＋佐々木敦
2 月 5 日	木	19:30-	青柳菜摘＋佐々木敦
2 月 12 日	木	19:30-	木原善彦＋佐々木敦
2 月 19 日	木	19:30-	村田沙耶香＋佐々木敦
2 月 26 日	木	19:30-	佐々木敦

ことばの学校 基礎科 講師プロフィール



青木淳悟(小説家)

1979 年埼玉生まれ。2003 年「四十日と四十夜のメルヘン」で新潮新人賞を受賞。2005 年、同作と「クレーターのほとりで」を収めた『四十日と四十夜のメルヘン』で野間文芸新人賞を受賞。2012 年『私のいない高校』で三島由紀夫賞受賞。著書に『このあいだ東京でね』、『学校の近くの家』、著作に「水戸黄門は見た」などがある。

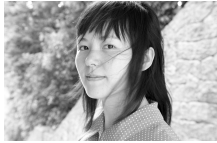


photo by wada shintaro

青柳菜摘(アーティスト、詩人)

1990 年東京都生まれ。映像メディアを用いた同時代芸術のアーティストとして、フィールドワークやリサーチをもとに、プロジェクトベースに主題を立てて作品を発表している。詩集『そだつのをやめる』(thoasa, 2022)が第 28 回中原中也賞受賞。コ本や honkbooks 主宰。



朝比奈秋(作家、医師)

1981 年京都府生まれ。作家、医師。2021 年「塩の道」で第七回林芙美子文学賞を受賞しデビュー。受賞作を収録した『私の盲端』がデビュー作となる。2023 年『植物少女』で三島由紀夫賞、『あなたの燃える左手で』で第 51 回泉鏡花文学賞、第 45 回野間文芸新人賞、24 年『サンショウウオの四十九日』で第 171 回芥川龍之介賞を受賞。その他の著書に、『受け手のいない祈り』がある。



伊藤亜紗(美学者)

美学者。東京科学大学未来社会創成研究院 DLab+ディレクター。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『どもる体』(医学書院)、『記憶する体』(春秋社)、『手の倫理』(講談社)、『体はゆく』(文藝春秋)など。



糸山秋子(小説家)

1966 年東京生まれ。早稲田大学政経学部卒業後メーカー営業職として福岡、名古屋、高崎、大宮に赴任。2003 年「イツ・オンリー・トーク」で文芸界新人賞。04 年『袋小路の男』で川端賞、05 年『海の仙人』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、06 年『沖で待つ』で芥川賞、16 年『薄情』で谷崎賞を受賞。高崎経済大学理事。05 年より高崎市在住。



イリナ・グリゴレ(文化人類学者)

1984 年ルーマニア生まれ。2006 年に日本に留学し、一時帰国後、2009 年に国費留学生として来日。弘前大学大学院修士課程修了後、2013 年に東京大学大学院博士課程入学。青森県内を主なフィールドに、獅子舞や女性の信仰を研究する。2023 年にはバヌアツで女性を対象としたフィールドワークを始めている。キーワードはイメージ、自然観、死生観、有用植物、霊魂。著書に『優しい地獄』(亜紀書房、2022 年)。



小笠原鳥類(詩人)

詩集『現代詩文庫 小笠原鳥類詩集』『鳥類学フィールド・ノート』『おお、限りなく懐かしい動物たち』『感動のシャーロック・ホームズ』など、詩論集『吉岡実を読み!』『現代詩が好きだ』、小説『エルガーを聞きながら書いた小説』(「ことばと」vol.1)、雑誌『現代詩手帖』『ユリイカ』などに書いています。絵も描きます。



撮影：嶋田礼奈

小川公代(英文学者、文芸評論家)

上智大学教授。専門はロマン主義文学、医学史。さまざまな文学作品を読むことから「ケアの倫理」について考察した『ケアの倫理とエンパワメント』を 2021 年に発表。最新刊は『ケアの物語 フランケンシュタインからはじめる』。ほかの著作に『ケアする惑星』『翔ぶ女たち』『世界文学でケアを読み解く』『ゴシックと身体 想像力と解放の英文学』など。翻訳書にシャーロット・ゴードン『メアリー・シェリー 『フランケンシュタイン』から〈共感の共同体〉へ』がある。



小川哲(小説家)

1986年千葉県千葉市生まれ。2015年「ユートロニカのこちら側」で第3回ハヤカワSFコンテスト<大賞>を受賞しデビュー。2017年『ゲームの王国』で第38回日本SF大賞、第31回山本周五郎賞を受賞。22年『地図と拳』で第13回山田風太郎賞、翌年同作で第168回直木三十五賞を受賞。同年『君のクイズ』で第76回日本推理作家協会賞長編および連作短編集部門を受賞。その他の著書に『嘘と正典』『君が手にするはずだった黄金について』『スメラミシング』など。



北野勇作(小説家)

1962年生まれ。1992年『昔、火星のあった場所』で日本ファンタジーノベル大賞・優秀賞。2001年『かめくん』で日本SF大賞。主な著作に『カメリ』『ありふれた金庫』『納戸のスナイパー』『ねこラジオ』等。ツイッターに、ほぼ毎日【ほぼ百字小説】を投稿しています。



木原善彦(英語圏現代文学研究者・翻訳者)

1967年生まれ。大阪大学大学院人文学研究科教授。著書に『UFOとポストモダン』『アイロニーはなぜ伝わるのか?』ほか。訳書にピンチョン『逆光』、アリ・スミス四季四部作、ギャディス『JR』(第5回日本翻訳大賞受賞)、ダーラ『失われたスクラップブック』(第11回日本翻訳大賞受賞)、ラミ『ムーア人による報告』、エヴェレット『ジェイムズ』、チャーリー・カウフマン『アントカインド』など。



古賀及子(エッセイスト)

1979年東京生まれ。エッセイスト。著書に日記エッセイ『ちょっと踊ったりすぐにかけだす』(素粒社)、『よくわからないまま輝き続ける世界と気がつくための日記集』(大和書房)、エッセイ『好きな食べものがみつからない』(ポプラ社)、『巣鴨のお寿司屋で、帰れと言われたことがある』(幻冬舎)等。



Photo: Kikuko Usuyama

向坂くじら(詩人)

詩人。一九九四年愛知県生まれ、埼玉県在住。著書に、詩集『アムホーム』『とても小さな理解のための』、小説『踊れ、愛より痛いほうへ』エッセイ『犬ではないと言われた犬』『ことばの観察』など。執筆活動に加え、小学生から高校生までを対象とした私塾「国語教室ことば舎」の運営を行う。二四年、初小説『いなくなくならなくならないで』が第一七一回芥川龍之介賞候補となる。クマガイユウヤとのポエトリーリーディング × エレキギターユニット「Anti-Trench」としても活動。



スズキナオ(ライター)

東京生まれ、大阪在住。ハシゴ酒と散策が趣味。WEBコラムサイト「デイリーポータルZ」「OHTABOOKSTAND」などで執筆中。著書『深夜高速バスに100回ぐらい乗ってわかったこと』(スタンド・ブックス)、『家から5分の旅館に泊まる』(太田出版)、『思い出せない思い出たちが僕らを家族にしてくれる』(新潮社)などがある。



仲俣暁生(編集者、文芸評論家、大学教員)

著書『極西文学論』(晶文社)、『失われた文学を求めて | 文芸時評編』(つかだま書房)など。2023年より「破船房」の名義で出版活動を開始。『橋本治「再読」ノート』、『ポスト・ムラカミの日本文学』(改訂新版)、『二〇二〇年代の同時代文学』などを刊行。



クレジット: 藤岡雅樹

村田沙耶香(小説家)

1979(昭和54)年千葉県生れ。玉川大学文学部芸術文化学科卒。2003(平成15)年「授乳」で群像新人文賞(小説部門・優秀作)受賞。2009年『ギンイロノウタ』で野間文芸新人賞、2013年『しろいろうの街の、その骨の体温の』で三島賞、2016年「コンビニ人間」で芥川賞受賞。著書に『殺人出産』『消滅世界』『生命式』『世界99』などがある。

言語表現コース ことばの学校 第5期基礎科 募集要項

●受講期間:2025年10月9日(木)～2026年2月26日(木)

●受講資格:18才以上(学歴、経験の有無は問いません)。
講義参加・課題提出や学校からのお知らせを受け取る際にインターネット環境が必要となります

●募集人員:【正規受講生】100名 【聴講生】定員なし
※申し込み後の移動はできません。※聴講生はリアルタイム参加は出来ません

●講義場所:オンライン
＜オンライン講義での受講条件＞
・WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。
・DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することがあります。

●講義日程:毎週木曜19:30～22:30
※講義により延長の可能性があり。
※講師のご都合により講義日程や講師に変更可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。

●講義回数・受講料:全20回／【正規受講生】77,000円(税込) 【聴講生】44,000円(税込)
※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。

●入学登録料:10,000円(税込)※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
【正規受講生】総額77,000円(映画美学校を初めて受講される方は87,000円)
39,000円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は49,000円) 残額38,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	77,000	39,000	38,000	1,596	39,596	9,899

【聴講生】総額44,000円(映画美学校を初めて受講される方は54,000円)
22,000円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は32,000円) 残額22,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	44,000	22,000	22,000	924	22,924	5,731

(単位:円／税込)

●申込期間:正規受講生:7月31日(木)15:00から9月29日(月)20:00まで
聴講生:7月31日(木)15:00から2026年1月31日(土)まで
※正規受講生は締切日以前に定員に達した場合、申込受付を締め切らせていただきます。

申し込みはこちら



●申込方法:オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。

●受講手続:申込書を映画美学校で受理後、メールにてご入金手続きの案内をさせていただきます。案内に従って、指定の期日までにお振込下さい。ご入金を確認された時点で申し込み受付完了となります。
※一旦納入された受講料は原則として返金できません。
※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます(詳しくは映画美学校約款をご参照ください)。

映画美学校約款

Ⅰ 受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

Ⅱ 受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

Ⅲ 受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

Ⅳ 安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

Ⅴ 著作権について

- ◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

